

《投稿規程》

1. 目的

公益社団法人石川県理学療法士会（以下当会）の機関誌として、理学療法および関連領域における実践報告と研究発表の場を提供すること。

2. 募集論文の種類

研究論文（原著）、症例研究、調査、報告、その他とする（詳細は日本理学療法士協会「理学療法学投稿規定」に準ずる）。

3. 投稿者の資格

原則として当会会員に限る。但し、当会に寄与するのであれば学術誌編集部の決定により会員外の原稿を受理することが出来る。

4. 投稿原稿の条件

投稿原稿は、他紙に発表または投稿中の原稿でないこと。本規程及び執筆規程に従って作成すること。また、投稿に際しては必ず共著者の同意を得ること。

5. 利益相反

利益相反の可能性のある事項がある場合は投稿時に紙面で報告すること。なお、利益相反に関しては厚生労働省の指針（註1）を参照すること。

6. 研究倫理

ヘルシンキ宣言に基づき対象者の保護には十分留意し、説明と同意などの倫理的な配慮に関する記述を必ず行うこと。また、原則として厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針」などの医学研究に関する指針（註1）に従うこと。

ヒトを対象にする研究・調査・報告では、倫理審査を受けて行う事が望ましく、倫理審査を受けて承認されている場合は承認番号を記載すること。

研究目的（診療上の必要性以外）の放射線被曝は必ず倫理審査委員会の承認を得ていること。

動物実験系の論文の場合には、必ず倫理審査委員会等の承認番号を記述すること。

7. 著作権

本誌に掲載された論文の著作権は、当会に属するものとする。また、本誌に掲載された論文はオンライン公開される。

8. 原稿の採択

原稿の採否、掲載順は編集委員会で決定する。査読の結果、加筆、削除および一部書き直しをお願いすることがある。査読者から修正を求められた場合、査読者の意見に基づき修正を行うか、コメントをすること。修正する場合は、修正した論文と、何処を修正したのか明解に判断できるもの、査読意見に関するコメントをあわせて提出すること。また、編集委員の責任において、字句の訂正を加えることがある。

9. 校正

著者校正は原則として1回とし、校正後の文章及び図表の変更は原則として認めない。

10. 別刷

別刷を希望される方は30部を無料で贈呈する。それを超える部数については実費を徴集する。

11. その他

不明な点は編集部にお問い合わせ下さい。

12. 原稿送付先および連絡先

〒920-0942

石川県金沢市小立野5丁目11-80

公益社団法人 石川県理学療法士会

学術誌編集部

Tel: 076-265-2623

E-mail: mmt@ishikawa-pt.com

註1: <http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya>

/hokabunya/kenkyujigyou/i-kenkyu/index.htmlをご参照下さい。

《執筆規程》

1. 論文の構成

1) 標題（表題）：内容を具体的かつ的確に表し、できるだけ簡潔に記載する。用語は本文に用いた言語とし、キーワードを含むように配慮する。原則として略語・略称は用いない。

2) 著者名：著者は当該研究・執筆に寄与するところの多い人を必要最少限に記載する。欧文の著者名は、姓のすべてと名の頭文字を大文字で記載する。

3) 要旨：「目的」、「方法」、「結果」、「結論」について簡潔に記載する。

4) キーワード：標題および要旨より抽出し、不十分な場合は本文から補充する。理学療法士協会学術キーワード集を参考に、標準的な単語を用いること。

5) 本文：

①はじめに（序論、緒言）

研究の背景、臨床的意義、研究の目的、取り扱っている主題の範囲、先行研究との関連性の明示などを記述する。

②対象および方法

用いた研究方法について第三者が追試できるように記述する。倫理的配慮も記述すること。

③結果（成績）

研究で得られた結果を本文および図表を用いて記述する。データは、検証、追試を行いやすいように図（グラフ）よりも表にして数値で示す。

④考察（分析）

結果の分析・評価、今後の課題、などを記述する。

⑤結 論

研究で得られた結論を200～300字で簡潔に記述する。

⑥謝 辞

著者資格には該当しない研究への貢献者、および助成金受給については謝辞に記載する。

6) 文献：引用文献のみとする。

2. 原稿の規程分量

原稿は要旨、文献、図表を含め原則として刷り上がり4頁（400字詰め原稿用紙24枚・9,600字相当）または6頁（400字詰め原稿用紙32枚・12,800字相当）とする。図表は、刷り上がり1/4頁大のもの1個を400字詰め原稿用紙1枚として換算すること。

3. 表題と要旨

原稿には和英併記にて表題、著者名、所属名、責任著者連絡先（Emailアドレス含む）を記載し、300字程度の和文要旨と和文のキーワード3個を添えること。

4. 本 文

文章は楷書、横書き、口語体、現代仮名遣い、数字は算用数字、単位は国際単位系（SI単位）を用いる（長さ：m、質量：kg、時間：s、温度：℃、周波数：Hz、等）。外国語名（地名、人名、その他）は、原則として原語を用い、略語は初出時にフルスペルあるいは和訳も記載する。なお、句点は「.」、読点は「,」とする。

5. 図 表

図・表は本文に出てくる順に、それぞれ一連番号をつける。グラフィック表現および写真は図に含める。図の番号および表題は図の下に、表の場合は表の上につける。図・表の転載は投稿前に著者の責任で転載許可をとり、本文中に記載すること。

図表（写真を含む）は本文に出てくる順に、それぞれに一連番号をつける。挿入位置は本文の右欄外に指示する。図の番号および表題は図の下に、表の場合は表の上につける。図表の説明（キャプション）をつける場合は図表の下に記載すること。

6. 文 献

引用文献は本文の引用順に並べる。雑誌の場合は著者氏名、論文題目、雑誌名、西暦年号、巻、頁（最初～最終）の順に書き、単行本の場合は著者氏名、書名、編集者名、発行所名、発行地、西暦年号、頁を記載する。文献の省略は公の省略法（Index Medicusなど）に従う。引用文献の著者氏名が3名以上の場合は最初の2名を記載する。

[例]

- 1) 宮本謙三, 竹林秀晃, 他: 加齢による敏捷性機能の変化過程－Ten Step Test を用いて－. 理学療法学. 2008; 35: 35-41.
- 2) Tompkins J, Bosch PR, et al.: Changes in Functional Walking Distance and Health-Related Quality of Life After Gastric Bypass Surgery. Phys Ther. 2008; 88: 928-935.

3) 信原克哉: 肩－その機能と臨床－（第3版）. 医学書院, 東京, 2001, pp156-168.

4) Kocher MS: Evaluation of the medical literature. Chap 4. In: Morrissy RT and Weinstein SL (eds): Lovell and Winter's Pediatric Orthopaedics. 6th ed, Lippincott Williams & Wilkins, Philadelphia, 2006, pp97-112.

5) 名郷直樹: EBMの現状と課題, エビデンスに基づく理学療法 活用と臨床思考過程の実際. 内山 靖 (編), 医歯薬出版, 東京, 2008, pp18-38.

6) <http://www8.cao.go.jp/shougai/whitepaper/h26haku sho/zenbun/index-w.html> (参照 2015-02-23)

7. 機器名の記載法

機器名は、「一般名（会社名、製品名）」で表記する。なお、統計ソフトは「製品名、バージョン番号」とする。

8. 倫理審査の記載法

原稿提出段階では施設名は記載せず、承認番号のみ記載すること。

9. その他

- 1) 必要がない限り表には縦線は使用しないこと。
- 2) 表・図（写真を含む）の挿入位置は本文の右欄外に指示する。
- 3) 原稿には、表紙を含めページ数を必ず記入する。
- 4) 原稿はCD-R等で提出し、提出論文のコピーは手元に必ず保存すること。なお、原稿はE-mail書類添付による送付も受け付ける。いずれの場合もテキストファイル形式またはMicrosoft Word形式とする。

(2015年3月31日改訂)